

ユーラシアンホットライン

「アジアから見える日本」を体験しませんか。

3 月 19 日 ユーラシアンクラブ新春交歓会にご参加をお待ちします。

アフガニスタン、イラン、ウズベキスタン、モンゴル、ウイグル、サハ、アイヌ等さまざまな民族の友人とアジアを共有しましょう。「心でつながるシルクロード」「アジアから見える日本」を体験しませんか。

【19 日に参加いただける方】

昨年米寿を迎えた加藤九祚先生は今年 5 月 18 日で 89 歳。ますますお元気でこのほどウズベキスタンの中央アジア・シルクロード学の権威 E・V・ルトヴェラゼ氏の名著の翻訳を完成(『中央アジアの文明・国家・文化 シルクロード学序説』平凡社刊)し、5 月 15 日に出版記念パーティをすることになりました。また加藤九祚先生の記念碑的著作「天の蛇」も再版され、新春交歓会では、シルクロード学の最新事情を紹介いただき、皆様と親しく懇談します。

今年は、諸民族の皆さんと相撲フェスティバル「アジア SUMO フェスタ」を 10 月 16 日千葉県君津市のカムイミントラで開催します。国家・民族・宗教を超えた「裸の付き合い」。言葉の要らない交流は音楽同様アジアの絆を強めると思っています。さまざまな民族の相互理解や協力促進につながるはず。呼びかけ人の東京アイヌ協会名誉会長浦川治造さんやモンゴル・ブフ(相撲)・クラブのバーボルドさんの夢を聞いてください。モンゴル相撲の力士も参加します。

昨年 11 月には、ウズベキスタンで 20 年間仏教遺跡の発掘調査を続けてきた加藤九祚先生の米寿の祝いを兼ねて「文化コンファレンス&フェスティバル」を実施しましたが、首都タシケントでの準備作業や青年宮殿でのフェスティバルのお手伝いをしていただいたガイラト・ジュマエフさん夫妻も参加します。東京、京都、奈良を奥さんと一緒に観光するための来日ですが、我が家のある愛川町にも来てもらおうと希望しています。また長年ユーラシアンクラブの活動を理解し協力していただいたアザムさんが日本で大手企業に就職することが決まり東京を離れることになりました。アザムさんも東京での最後の催しに参加します。

音楽を通じたアジア理解の目的のためクラブが続けている「アジア・シルクロード音楽フェスティバル」のリーダー的音楽家になったパンスリ奏者パンチャラマさんも友情出演です。パンチャラマさんは、ウズベキスタンでの音楽フェスティバル、愛川町での小学校の鑑賞教室、愛川町文化会館での夏の音楽フェスティバルにも参加してもらい、既に愛川町には 4,5 回訪れ、町民の間にも大分知られてきました。今年も、愛川町、日本橋で活躍してほしいと思っていま



す。

アジアで最も音楽好きな民族といえばウイグル人です。日本の三味線文化の起源の一つ「火不思」(クーブーズ)を中国に広めたのはウイグル人だと考えています。現在はベルシャ系の楽器群がウイグル人の音楽文化の基礎になっていますが、その種類、演奏する人たちの数(割合)はアジア随一ではないかと思えます。アジア・シルクロード音楽フェスティバルを

通して十年ほどのお付き合いになった東京藝術大学作曲科の助手アブドセミ・アブドラフマンさんが参加、ウイグル舞踊の舞姫グリザルさんは今年も参加です。

アフガニスタンからは、駐日アフガニスタン大使館 <http://www.afghanembassyjp.com/> から代表が参加あいさつするほか、アフガニスタンで児童教育支援に取り組んでいる NPO 法人イェグルアフガン復興協会関係者が多数参加します。このニュースレターでは、音楽によるアフガニスタン復興に取り組むグルザマン氏(「スター誕生」129 号)パーミヤン仏教遺跡の活用に取り組むアミール・フォラディ氏(137 号)のインタビュー記事を掲載しています。継続してアフガニスタン理解に役立つ情報をお届けするつもりですが、今回の新春交歓会では、アフガニスタンの今について直接話を聞くことができます。

また、アフガニスタンのすぐお隣のイランの音楽家や日本で仕事をしている友人も参加します。日本を含むユーラシアの文化形成に重要な影響を与えたベルシャの人と文化を考えるきっかけになると思っています。

また北極海に面した中央シベリア・ロシア連邦サハ共和国からは昨年 16 人の和太鼓研修児童代表団を愛川町で受け入れ大きな成果を収めました。今年も 8 月 1 日から 12 日の方向で受け入れ条件の整備が行われています。愛川町からも取り組みの現状が報告されます。

また日本におけるゾロアスター教研究の第一人者岡田明憲氏も参加し、今後ご協力いただくことになりました。

【ユーラシアンクラブが提案したい活動計画】

- 「三味線文化再生プロジェクト」
- 「中津川流域プロジェクト」
- 「情報通信ネットワーク
- 『ホットライン アジア』」

- ・ アルタイ共和国 NPO 「アルタイ・日本文化センター “金” の呼びかけ
- ・ アムール流域の先住民族村自立支援「300 人の村シカチアリヤンの古代壁画展」

[アルタイ共和国から交流を希望]

昨秋創設の「アルタイ・日本文化センター“金”」が「日本語教師派遣」を要望!

で、法人の住所は：649000 アルタイ共和国、ゴルノアルタイスク市、コムニスティチェスキー通り、35 にあります。

私がかつて、加藤九祚先生と 5 年間通い続けたアルタイ山脈にあるアルタイ共和国（ロシア連邦）ゴルノアルタイスク市で昨年秋創設された非営利交流団体「アルタイ・日本文化センター“金”」のエドゥアルド バブラシェフ理事長から日本語の教師の派遣を初め、日本との文化交流を希望するとのメールが届きました。アルタイ山脈（アルタイは、「金山」の意味）は、騎馬民族スキタイと匈奴の接触融合したアジアの東西文化の接点で、トルコ系民族の起源の謎が潜む地域として知られています。私はここで 5 年間の準備を経て、凍結王墓群で知られるパジリク(スキタイ)文化の氷結した古墳の調査のために、膨大な調査機器と一緒に多くの研究者が調査に参加するプロジェクトに事務局長として協力しました。その中で多くのアルタイ族の人々と知り合い、「草原の海」とも表現される美しい山々や草原、日本人に良く似た人々の暮らしに触れ、後に創設するユーラシアンクラブ誕生のきっかけを得た場所です。今回の交流の申し出は、思いがけなく、そして何か古い言い方もかもしれませんが「縁」を感じる、うれしく、楽しい事件で、「喜んで、できるだけ協力させていただきたい」とお答えしました。



とはいえ、日本人の間ではほとんど知られていない地域であり、バブラシェフ理事長には、アルタイ共和国の人と文化、自然と暮らしについての情報を毎月送っていただくようお願いしました。「アルタイ・日本文化センター“金”」が、日本側に希望している最初の要望は「日本語教師」の派遣です。関係各位のご協力をお願いします。できるだけ早期に実現したいと思います。ゴルノアルタイスク市には「日本語学校」の施設は用意され、滞在には“金”関係者が最大限のサポートを行うと伝えられています。以下、バブラシェフ理事長から送られた要望と団体の紹介文書を紹介しします。

こんにちは、大野さん。

日本にいる友人から知らせを受け、大変喜んでいきます。あなた方の団体について聞きました。私たちはできて間もない団体です。夏には子どもたちを対象とした日本語講座を計画しています。日本語の教師の受け入れと代表団の交流もまた予定しています。建物や設備はあります。支援者と一緒に団体を運営しており、法人化されています。次回の手紙で喜んであなた方のいろいろな要望にお応えします。どうぞあなた方の団体についても詳しく話してください。



「アルタイ-日本文化センター“金”」(以下、パルトウネルストヴォ=パートナーシップと称す;日本語では「団体」)は非営利団体

団体の活動の目的

1. 団体はアルタイ共和国と日本の文化的関係、協力、相互理解を発展させ、アルタイ共和国と日本の民族文化を充実させるため、多様な交流および実務的協力をサポートする

2. 上記の団体の目的を実現するため：さまざまな文化機関および団体と協力、創造的な提携を行う；-;理解に役立つ、文化的セミナーや会議を組織し実施、文化人、文学者、芸術家との出会い、芸術家やアマチュアのコンサート

の開催、地元やロシアおよび国際的イベント（フェスティバル、祭り、創造的コンクール、講演、オリンピック等）へ参加する

；文化、言語および諸民族の伝統に関する知識を拡充するため、日本やアルタイ共和国で生活する

；母国語、伝統的楽器の演奏、歌謡や舞踊、民族文化、伝統や習慣、言語、文学、美術工芸、フォークロアや民芸品、また伝統的スポーツ、民族料理、民族的祭りや儀礼を学ぶセミナー、クラブ、コースの企画

；子ども、若者、そして大人の見識を向上させるようなイベントの企画。特に内外で教育を受けた才能ある若者の代表に対する企画の促進。

；チャリティイベント

；民芸品の展覧会、アーティストの個展そしてさまざまなフォークアートのアーティストの間の経験交流などの企画と参加；パートナーシップ活動の一環としてアルタイ共和国を訪れるロシアや外国の代表団またアルタイ共和国とのパートナーシップの方向でアルタイ共和国を出発する代表団のレセプションの開催

；-文化交流を拡充する目的でアルタイ共和国の創造集団を外国に派遣する企画

；パートナーシップの確立を目的とするさまざまな企画を作成し具体化し、研修プログラム（マスタークラス、セミナーやチュートリアル）を実施；団体や団体の会員の活動を周知し、活動を実施するため新聞、雑誌その他のマスメディアの発行、方法論、教育と宣伝資料の開発と編集；

3. 団体は、法律上禁止されていない限りにおいて、団体が設立された目的達成のために適う事業に従事する。

4. 活動の特定の種類、リストは法律上決定され、パートナーシップは許可に基づいて実施される。以上です。

【オクスサ学会からお知らせ】

E・V・ルトヴェラゼ著 / 加藤九祚訳

『中央アジアの文明・国家・文化 シルクロード学序説』平凡社刊

出版記念講演会(主催・オクスサ学会)



しまねイン青山案内図

〒107-0062 東京都港区南青山7丁目1番5
☎03-3797-3399 (代)

表参道駅 徒歩9分 (B1出口)

バス便のご案内 (洗谷駅南口より徒歩)(ご利用)
都立大南校 洗谷駅南口(南口)徒歩1分
都立大南校 洗谷駅南口(南口)徒歩1分
都立大南校 洗谷駅南口(南口)徒歩1分

アレクサンドロス大王の率いる騎馬隊の轡(くつわ)の轟きを聞いたことがありますか。玄奘法師の足音を耳を澄ましたことがありますか。中央アジアの大地と大河に人びとが送り届けたざわめきに耳をそば立て、おぼろな記憶の糸をたぐり続けた一人の穏やかだが強靱な知性が、最新の考古学的成果を携えて舞台上に登場する。みんなで共にこの舞台を盛り上げたいと思います。

ウズベキスタンからルトヴェラゼ教授(アカデミー会員)を迎えて中央アジアの文明を深く自在に語る会を下記のとおり開催致します。一人で多くの方をお誘いのうえご参加下さるようお願い致します。

と き 2011年5月15日(日) 1:30 開場 2:30 講演開始

ところ しまねイン青山(東京都港区南青山7-1-5)

電話: 03-3797-3399) 地図参照

* 駐車場はありません。

内 容 記念講演 2:30~4:30

講師: ルトヴェラゼ教授

「中央アジア最大の謎・クシャン朝を掘る」

通訳・加藤九祚

出版記念会 5:00~7:00

会 費 9,000 円(上記新著を著者・訳者のサイン入りで進呈)

ご夫妻の場合: 本は1冊、お1人様は本代を差し引きます。

資 格 オクスサ学会の会員でなくてもご参加いただけます。ご友

人をお誘いください。

お申込 オクスサ学会へメールで(oxus@s09.itscom.net)

* 参加者が複数の場合: 全員のお名前をお書きください。

* ご夫妻の場合: 「夫妻」とご明記ください。

メールをお持ちでない方はご友人のメールに連記してください。

定員は150名です。お申し込みはお早めに。

お問合せ こびき(048-866-1613 e-mail: kovik@mbe.nifty.com)

主 催 オクスサ学会

発起人 加藤九祚 前田耕作

大野 遼 古曳正夫 高野直明 長澤法隆

二宮洋太郎 野口信彦 松田徳太郎 (アイウエオ順)



アザディ世界言語大学 東洋学部
昨年9月から、トルクメニスタン国立アザディ世界言語大学で日本語教師をしています。ベルディムハメドフ大統領のお考えで、2007年9月に国で初めてこの大学で日本語学科ができました。実は2008年3月から7月まで来ていましたので

「トルクメニスタンに来て」

日本語教師 森崎律子

校舎の前で

2回目になります。

トルクメニスタンは皆様ご存じの通り、前ニヤゾフ大統領による個人崇拜的な独裁体制でありましたが、現大統領に代わってからは教育分野の重視、衛星放送やインターネットの普及により徐々に変わりつつあります。

来る前の印象は、国土の80%が砂漠と聞いていたので、町はもっと埃っぽいと思っていました。それにイスラム教なので戒律が厳しいと思っていましたが、意外に厳しくなくてお酒やたばこを飲ん

ている人もいます。1 日 5 回のお祈りも人によって様々です。

ここで生活してみてもやはり 1 番困るのは日本の食材が一切ないので、食べ物に執着している大阪人にとってはつらいものがあります。ほとんど自炊をしていますが、日本にいる友人が何を食べているのか心配しているので、ときどき作った料理をカメラに収めています。先日も部屋の電気の修理に来た若い男性が「日本とトルクメニスタンではどっちがいい？」と質問をしました。もちろん日本ですが、彼は世界で一番トルクメニスタンがいいと思っているような口ぶりでした。独裁国家といわれても悲惨なことはなく、国民の生活はむしろ豊かで貧富の差が少なく幸せ感があるように見受けられます。とにかく何が一番いいかという、何ととっても治安がいいということです。外国人にとってこれが一番です。在留邦人は 16 人ですが、そのうち日本大使館の方が半分以上で、あとは日本企業の駐在員 3 人、日本語教師 2 人です。ときどきタクシーに乗ると中国人？と聞かれますが、日本人と答えると笑顔が返ってきて、必ず「トヨ

タ！」と叫んで、日本に好感を持っているようで、車内の空気が一変します。

大学は 5 年まであって、日本語学科は今 4 年生が年長です。1 クラス 10 人になっているので、学生 1 人 1 人の顔や性格がクローズアップされ、個別対応の良さがありますが、反面それがストレスになるデメリットもあります。因みにそれで 6 キロもやせました。ともあれ、私の考えは日本語だけでなく日本文化を教えることも重視しています。去年から書道を教えていますが、今回日本に帰って花嫁のお色直しの衣装や帯を買いました。京都の着付けの先生に振袖の帯の結び方を習って、学生に着せてそれを披露したいと思っています。普通のトルクメン人でも茶道・生け花・やくざなどを知っているのには驚きました。

トルクメニスタンでは日本文化を紹介し、日本に帰ったら必ずトルクメニスタンを紹介するように活動しています。日本の文化を紹介することを私のライフワークにしています。

< NPO バイオマス産業社会ネットワーク (BIN) >

高知県のバイオマス活用視察～土佐の森・救援隊と施設見学～募集のご案内

旅行期間：2011 年 3 月 16 日 (水)～17 日 (木) 2 日間

【訪問予定先】

- 1 日目：(1) 土佐の森・救援隊 (作業現場視察と講演)
- 2 日目：(2) 仁淀川流域エネルギー自給システム (ガス化発電施設・ペレット製造設備)
- (3) 農業組合法人 高知バイオマスファーム

企画：NPO バイオマス産業社会ネットワーク (BIN)

旅行企画・実施：株式会社霞が関トラベル

締め切り：2 月 24 日 (木)。それ以後は、霞が関トラベル (Tel:03-3508-2221) までご相談ください。

林業が儲からなくなり、「林家」という言葉はほぼ死語になったと思われています。それを踏まえて、「森林・林業再生プラン」では、森林組合を核とする林業施策を政策として打ち出していますが、その一方で、山村の森林所有者の 6 割は、「林業をしたい」と考えています。

そうした中で高知県の NPO 法人土佐の森・救援隊は、「C 材で晩酌を！」を掛け声に自伐林家が週末林業で間伐材を搬出し、補助金も活用してバイオマス利用し、副収入を稼ぐシステムをつくり上げました。農家やサラリーマンが副業で林業をする、この方式は、岐

阜県や山梨県などすでに 12 都県で導入されています。

今回、この土佐の森・救援隊と仁淀川流域エネルギー自給システムなどを視察するバイオマス利用事情視察を企画しました。中部ヨーロッパなどでは広く行われている農家・林家の日本版の新しい動きを、実際に現場を訪ねて、今後の林業とバイオマス利用について考えることができれば幸いです。皆様のご参加をお待ちしています。

詳細・お申し込みは、霞が関トラベル HP の下記をご参照ください。<http://www.ktb.jp/abtour/11/1101.html>

NPO 法人バイオマス産業社会ネットワーク (BIN) では、会員を募集中です。個人会員 (年会費 3,000 円より) と法人会員があります。

会員の方は、BIN 研究会に会員価格 (通常無料) でご参加できるほか、バイオマスのメールマガジンやメーリングリストへの登録が可能です。

詳しくは、当ネットワークホームページ (<http://www.npobin.net/>) の「会員制度」のページをご参照ください。

なお、会員の方で[e-biomass]で始まるメーリングリストのメールが届いていない方は、<http://groups.yahoo.co.jp/group/e-biomass/> で再送付手続きをしていただくか、事務局までご連絡いただければ幸いです。

メディア・ユーラシア情報

東京外国語大学「日本語で読む中東メディア」が注目

北アフリカのチュニジア、エジプト、リビアと市民による民主主義をめざす民衆革命が怒濤のように進んでいます。その現場であるエジプトやレバノン、イランやイラク、トルコで発行される現地新聞を日本語に翻訳したニュースサイトが注目を集めています。欧米や日本のメディアの目を通さず、中東の「いま」を直接、日本に伝えているとともに、アラブやイスラムの暮らしや宗教が、リアルに

より具体的に感じられるからです。

それは、東京外国語大学外国語学部アラビア語専攻・ペルシャ語専攻・トルコ語専攻の学生と院生が、現地の新聞のインターネット版記事の一部を和訳の上、紹介するサイトです。校閲は留学経験の長い院生や専門家が当たっています。翻訳記事には翻訳者名と原文に直ぐクリックでき、しかも関連記事にも直ぐに当たれます。

翻訳される新聞は、アラビア語新聞ではエジプト紙 レバノン紙 イラク紙 の他ロンドンに拠点を置く汎アラブ紙二紙。ペルシャ語紙では、イランで発行する改革系や保守系新聞など七紙。トルコ語紙では、比較的リベラルな傾向の一般紙、左派のリベラル紙、与党・公正発展党の機関誌とも言われる新聞、イスラム色の強い保守系新聞など六紙です。

独裁と腐敗を一掃し、民主主義をめざす激動のエジプトなどの現場から、そして、欧米と対決しイスラム保守派が支配し、厳しく改革派を弾圧するイランの現場から、さらに NATO に属しながら、

欧米とは一線を画し、欧米とイスラムに跨った独自の外交を重ね、存在感を増すトルコの現場から、生々しく迫力あるニュースやコラムが読めます。日本にいながら、世界を見る、もう一つの眼と言えそうです。

最新ニュース一覧をみることも出来ますし、アラビア語、ペルシア語、トルコ語と言語別、ジャンル別に見ることも出来ます。検索も、新聞紙名(複数指定可)、ジャンル名(複数指定可)、時期の3つを指定できます。このサイトは

<http://www.tufts.ac.jp/common/prmeis/fs/> です。(編集部)

<<中央アジア>>

カザフスタン、4月3日に前倒し大統領選

【モスクワ=副島英樹】インタファクス通信によると、中央アジア・カザフスタンのナザルバエフ大統領(70)は4日、前倒し大統領選を4月3日に実施するとの大統領令に署名した。次期大統領選は2012年の予定だったが、ナザルバエフ氏は、議会や国民の署名運動が求めた国民投票による2020年までの任期延長を拒否する代わりに、前倒し選挙を提案していた。

ソ連崩壊前から約20年間大統領職にある同氏の勝利は確実な情勢。次期大統領選から任期は7年から5年に短縮されるため、在任は2016年まで延びそうだ。

朝日新聞 2011年2月4日

<http://www.asahi.com/international/update/0204/TKY201102040508.html> より

トルクメニスタンで馬の「美人コンテスト」、大統領命令で開催

2011年02月08日

[アシガバート 7日 ロイター]トルクメニスタンのベルドイムハメドフ大統領は7日、同国原産の馬アハルテケのビューティーコンテストを毎年4月に開催する大統領命令を出した。

それによると、同コンテストで優勝した馬は「夢のような競走馬の存在を世界中に広める」大役を担う。また、馬をデザインしたカーペットや馬の晴れ着、ポートレート、彫刻の中からも最も素晴らしいものが選ばれ、特別賞が贈られる。

アハルテケ種の馬は、光沢のある毛や長く優美な首と脚が有名。そのスピードと持久力がかつてアレキサンダー大王から高い評価を受けたとされる。

この馬を外国の要人へプレゼントすることもある同国では、馬肉を食べることはタブー。2004年には、ニヤゾフ前大統領がプールやエアコン、医療施設などを備えた2000万ドル(約16億4000万円)の馬用レジャーセンターをオープンしている。

<http://jp.reuters.com/article/oddlyEnoughNews/idJPJAPAN-19449220110208> より

<<東アジア>>

ユジノで北海道フェア 今秋初開催 知事が表明

高橋はみ知事は28日の道議会一般質問で、ロシア・極東地域での道産品の販路拡大に向け、「秋ごろにユジノサハリンスク市で北海道フェアを開催する」と表明した。同市でのフェア開催は初めてで、極東地域との経済交流を活性化させる狙いだ。

北海道新聞 2011年3月1日朝刊

<http://www.hokkaido-np.co.jp/news/economic/275113.html> より

再開のハバロフスク便、低調 1月の平均搭乗率は2割強

県と新潟市の財政支援を受け、昨年12月に運航を再開した新潟空港のロシア線の搭乗率が約2割と振るわないことが、関係者への取材で分かった。目標の搭乗率約7割をはるかに下回り、来季の運航にも暗雲が漂っている。だが新潟市が企画した格安ツアーが人気を呼ぶ明るい材料も見られ、県や市は今月中旬から3月にかけての巻き返しを期待している。

新潟空港には昨年12月29日、ハバロフスクからの航空機が約2カ月ぶりに到着した。ロシア人の観光客や留学生は大きな荷物を抱えて笑顔を浮かべた。久しぶりに再会した日本在住の家族と抱き合うロシア人客もいた。

しかしこの日、ハバロフスクに向かった便も合わせ、搭乗率は約19%。1月11日に再開したウラジオストク便も同日の搭乗率は約41%だった。

両路線を運航するウラジオストク航空は昨年10月、利用客の減少を理由に両路線を運休。県と新潟市は「ロシアとの交流が途絶えてはいけない」として同社への最大1億円の財政支援を決めた。

3者で結んだ協定では、目標搭乗率をハバロフスク便で67%、ウラジオストク便で69%と設定。目標搭乗率を下回った場合、1便あたり最大200万円まで県と市が支援金を支払うことになる。

搭乗率が低いほど支援額は膨らむが、関係者によると、両便の1月中の平均搭乗率は2割強。今月1日のウラジオストク便は約23%、2日のハバロフスク便は約11%と低調だった。

運賃はJTBの場合、両便とも往復6万8千円、県民特別価格で同4万5千円。ウラジオストク便の片道3万4千円、搭乗率23%で単純計算すると約220万円の支援が必要な状況で、上限の200万円を超えてしまう。

県空港課はロシア現地との交流や研修を目的とした10人以上の団体利用に対し、1人あたり1万円を助成する支援策や、新潟空港に来るための団体バスの利用料の半額を補助する策を打ち出しているが、いずれもまだ利用実績はないという。

利用が伸び悩んでいることについて、ウラジオストク航空は「もともと冬季の観光利用はほとんどない。運航再開を知らせ、利用を呼びかける時間もなかった」とする。

一方、新潟市が企画した格安ツアーは人気だ。20人の募集に対し、応募者は40人。応募はキャンセル待ちの状態だ。3割ほど航

空機代が安くなる県民割引を適用したことで、2月23日～3月1日の7日間で、航空機代、ホテル代、食事代が計9万9800円。安さがうけた。移動にシベリア鉄道を使う行程も人気で、中高年の夫婦や1人での応募が多いという。

新潟市空港対策課によると、これまでは「寒い時期に行く人はいない」という固定観念があり、ツアーをあまり組んでなかった。同課は「考え方を変える必要がある。がむしゃらになって仕掛けを考え、利用を増やしたい」とする。県空港課も「各団体や旅行者に利用やツアーづくりを呼びかけている。今後の成果を見ていきたい」としている。(大内奏)

朝日新聞新潟版 マイタウン新潟 2011年2月8日

<http://mytown.asahi.com/areanews/niiigata/TKY201102070389.htm>
より

ロシア航路活用探る 射水の富山新港 モスクワへ輸送実験開始

ロシア極東定期コンテナ航路とシベリア鉄道を活用した県のトライアル輸送実験は19日、射水市の富山新港で始まった。モスクワに運ぶ県内外5社の貨物が定期コンテナ船ベガ・ダボス号に積み込まれ、出港した。

県によると、シベリア鉄道活用の実験は2009年にノボシビルスクまで運んだのに続いて2度目で、モスクワへの輸送は初めて。ロシア定期コンテナ航路では伏木富山港が国内最後の寄港地であり、同港の活用により輸送時間が短縮される利点を最大限に活用するため実験が行われた。モスクワに到着するまでの日数や貨物の安全性などを確かめる。

貨物は23日にウラジオストク港に運ばれ、シベリア鉄道に積み替えて早ければ3月5日にモスクワに到着する。

国土交通省伏木富山港湾事務所の小型コンテナを活用したロシア向け貨物の輸送実験も同時に行われ、12フィートの鉄道貨物用コンテナも船に積み込まれた。ウラジオストクに輸送され、輸送時間や費用などを検証する。

富山新聞 2月20日

<http://www.toyama.hokkoku.co.jp/subpage/T20110220201.htm>
より

自宅軟禁続く劉霞さん 「気がおかしくなりそう」

【北京＝朝田憲祐】昨年のノーベル平和賞受賞者で、中国の民主活動家、劉曉波(りゅうぎょうは)氏(55)＝国家政権転覆扇動罪で服役中＝の妻、劉霞(りゅうか)さん(49)が18日、劉氏と面会できず、公安当局の自宅軟禁が続く状況について「気がおかしくなりそう」と、インターネットを通じ親友に打ち明けていたことが分かった。

劉霞さんの消息は、昨年十月の平和賞授賞決定直後、親友に「両親が当局の“人質”になっている。彼らの安全のため、所在が分からないようにします」と伝えて以来、四カ月ほど途絶えていた。

劉夫妻の共通の友人によると、劉霞さんは18日未明、当局の監視の隙をうかがい、ネットを通じて約三十分、「涙が止まらないの」と苦しい胸の内を伝えてきたという。

劉霞さんは、現在の生活に関し「ネットの使用は禁止で、外出も

できない」と不自由さを吐露。さらに「家族は全員が危険な状態。まさに人質」などと何度も強調し、高齢の両親や親類にも当局の圧力が強まっていることを心配していた。

東北部・遼寧省の刑務所に服役中の劉氏と「会えたのは一回」とし、授賞決定二日後の十月十日に面会が認められて以降、会っていないことを示唆し「本当に惨めだ。(現状を)夫に伝えることもできない」と訴えた。

北京の人権活動家は「当局は劉霞さんを精神的に追い込み、いずれ(亡命を拒否する)劉氏とともに出国を選択させ、中国から追放しようとしている可能性がある」と指摘し、当局を批判した。

東京新聞 2011年2月19日

<http://www.tokyo-np.co.jp/article/world/news/CK201102190200033.html> より

中国当局 集会封じ 23都市に拡大、数人連行

【北京＝池田実、ウルムチ(中国新疆ウイグル自治区)＝朝田憲祐】政治改革と民主化を求める「中国ジャスミン革命」の呼び掛けがあった北京や上海と、新疆ウイグル自治区ウルムチなど中国各地の主要都市で二十七日、当局が集会阻止に向け大量の警察官を動員した。目撃情報では、北京、上海で中国人数人が連行されたが、集会が開かれたとの情報はなく、当局は厳戒態勢により封じ込めに成功したもようだ。

集会の呼び掛けは二十日に続き二回目。前回十三都市から二十三都市に拡大した。

初めて集会が呼び掛けられたウルムチでは、集会所に指定された市中心部の映画館前や人民広場を、自動小銃や盾を持った警官らが巡回。観光客らが記念撮影すると私服警官が近づき、何を写したかカメラを調べるなど緊張感に包まれた。

同自治区では、人口の半数近くを占めるウイグル族が、漢族への「同化政策」や経済格差などに不満を持っており、二〇〇九年七月には大規模騒乱が起きた。ウイグル族は主にイスラム教を信仰。中東のデモ波及を恐れる中国当局は、呼び掛けのあった他都市より警戒を強化したという。

北京の繁華街、王府井では、私服も含め数百人の警察官が警戒。周辺は工事用防護壁で囲われ、散水車や警察犬なども出動した。

上海でも、映画館や地下鉄の入り口を封鎖。呼び掛け時間の午後二時(日本時間午後三時)には、カメラを所持していた若者らが警察に連行された。

当局は海外メディアに対し、法規を順守して取材を行うよう要求したほか、この問題を報じたNHKの海外放送のニュースを一時中断するなど、神経質な対応を続けている。

東京新聞 2011年2月28日

<http://www.tokyo-np.co.jp/article/world/news/CK201102280200030.html> より

愛川町での再研修「8月1日-12日」をサハ側に提案

ロシア連邦サハ共和国の子ども太鼓グループ「テティム」

昨年夏、愛川町の繊維産業会館で一週間にわたり合宿し、和太鼓奏者金子竜太郎さんの指導で県立愛川高校和太鼓部を初めたくさんのボランティア関係者の協力で研修を実施した太鼓グループ「テティム」が再び愛川町で研修したいと希望しています。昨年の 16 人より 10 人多い 26 人。研修場所を提供する神奈川県立愛川高校、和太鼓指導者の金子隆太郎氏、航空路線の

飛行計画、受け入れる地域や児童との調整その他受け入れ条件等をつめる必要がありますが、とりあえず招聘の日時について、「8月1日から12日」をサハ側に提案しました。最終的に受け入れ条件が合意されれば、具体化に向けて調整したいと思います。実施するには多くの方々のご協力をお願いすることになると思います。その節はどうぞご理解ご支援お願いいたします。

2011年2月8日、愛川町菅原小学校、高峰小学校、半原小学校で音楽鑑賞教室実施

モンゴル馬頭琴演奏者ライ・ハスローさんとネパールの竹笛パンスリ演奏者パンチャラマさんの鑑賞教室・ワークショップが8日行われました。前日から愛川町入りしたハスローさんは、愛川サライのスタッフとサライのホッとする空間を焚き火や羊料理で懇談。翌日は朝8時過ぎに菅原小学校を訪問しました。ハスローさんが同日の1-2時限目が菅原小学校、3-4時限目が半原小学校、5時限目が高峰小学校。パンチャラマさんは6時限目で、それぞれ多目的教室や体育館で行われました。

菅原小学校では、体育館に小学校二年生の全児童が、授業の一環として、1年生、3年生、4年生の見守り中朗読に挑戦。私は朗読の練習で「校庭で、遠くにいる友達に声をかけるように、声を飛ばして、元気に呼んでください」とお願いしていましたが、元気の良い声が聞こえました。ハスローさんは、子どもたちの顔を見ながら、草原を馬が駆ける様子を馬頭琴で再現。スライドでモンゴルの風景も上映しながら、普通の授業では得られない、モンゴルの雰囲気、最高の演奏を聞きながら楽しみました。生徒たちはその日のうちに感想文の寄せ書きをハスローさんまで届けてくれました。「今日の馬頭琴の演奏会は今までで一番の思い出になりました。モンゴルのあいさつセンペイノも面白かったし、曲の演奏はどれも心に残りました。その中で一番じんときたのが最後の曲「天馬」です。ハスローさんのまほうの手はいろいろな音が出せて、すごいです。わた

菅原小学校で朗読と合奏、馬頭琴の鑑賞教室



しも見習って、馬頭琴をひいてみたいです。一生の思い出になりました。ありがとうございました。「私はモンゴルのあいさつを初めてしれてうれしかったです。馬頭琴の演奏はとてもキレイな音楽でした。わたしたちは4年生なのでもう聞くことができないかもしれないけど今年の四月1年生になる子に聞かせてください」(いずれも4年生)など、目の前での一級の演奏に感動している様子が伝わる感想文ばかりでした。

半原小学校では、小学校の玄関上がり場に設営されたミニコンサート会場での即席演奏に数十人の児童が目を輝かせて演奏に聴き入り、体育館では父兄も姿を見せ、担任の先生の指導で見事な「音楽劇 スーホの白い馬」が紹介され、ハスローさんもびっくり。またハスローさんのしみいるような演奏に父兄も子どもたちも感動して聴き入っている様子でした。

高峰小学校では、ハスローさんの演奏に続いて、ネパールのパンスリ(竹笛)奏者、パンチャラマさんが、児童のリコーダー演奏や数種類の打楽器と一緒に共演、演奏の楽しさを実感、ほかでは聴くことができない高度な演奏に驚いていました。

私は、モンゴルやネパールの紹介だけでなく、日本とアジアのかかわり、自然と音楽のかかわりなどを解説。また愛川町を流れる中津川が、音楽芸能や子育ての神様として知られる弁才天に縁の川であることを説明しました。



半原小学校で音楽劇と馬頭琴の鑑賞教室



音楽でアジアが身近になる
「アジア子ども未来プロジェクト」
2011 年 2 月 8 日



高峰小学校で馬頭琴、バンスリのワークショップ



ユーラシアンクラブ・愛川サライの運営スタッフを募集します。アジア・シルクロードの諸民族の方々との交流を通して、アジアを視野に国家民族宗教を超えた理解親睦協力を促進し、諸民族の共生、自然との共生を模索して活動します。

アジア各地からの投稿を歓迎します。ユーラシアンクラブ・企画編集委員会までお知らせください。

3 月 19 日（土曜）東京・池袋の天府酒家で開催する「新春交歓会」にどうぞおいでください。申し込みはファックスで 03 - 5376 - 9343 もしくは 046 - 285 - 4895 でお願いします。（ご案内は別紙）

発行：特定非営利活動法人ユーラシアンクラブ 発行人：大野 遼
住所：〒103-0022 東京都中央区日本橋室町 1-11-5 TEL：03-5376-9343
支部愛川サライ〒243-0303 神奈川県愛甲郡愛川町中津 6314 - 1
TEL/FAX：046-285-4895 E-MAIL：paf02266@nifty.ne.jp
郵便振替：00190-7-87777 ユーラシアンクラブ お振り込の場合：ゆう
ちょ銀行 0 一 九 店 当座預金 0087777 ユーラシアンクラブ サポート
会費、ご寄付はこちらへ。会費は年間一口 6,000 円、一口以上のご
協力をお願い申し上げます。

<http://eurasianclub.cocolog-nifty.com/>

2011 0301 Non Profit Organization Eurasian Club

編集後記：11 年にわたって利用してきた新宿駅南口の会議室が 3 月一
杯で解約される。この場所があったことでできたことは多い。早稲田
大学小野講堂で行った「ユーラシア紛争地特別フォーラム」、極東最
大の日本文化の祭典「21 世紀日本・ロシア交流促進フェスティバル」、
「キース・デビリエー太古の響き」彩の国さいたま芸術劇場公
演、キルギスにおける「アジアの瞳サマーキャンプ&フェスティバル」
苦渋の思い出も重なる理解親睦協力の活動。脱皮を図ったこの数年
の議論。意味のあるユーラシアンクラブの軸は、日本橋と愛川町での
アジアとつながる発信力のある地域拠点型活動そして情報通信ネッ
トワーク「ホットライン アジア」19 日を成功させ前進したい（お）